



## トピックス

### 「市の鳥・ハクチョウ」展示ができました

ー 昨年の「ハクチョウすごろく」、昨年の「ハクチョウかるた」に続く、ハクチョウ展示の第3弾が完成。今回は、ウトナイ湖で観察されるハクチョウ類の見分け方、オオハクチョウの暮らし、よくある質問とその回答(Q&A)を、写真とテキストで紹介したものです。

Q&Aは、イラストの子どもが「夏にウトナイ湖でハクチョウを見たよ。なぜ、いるの?」などと問いかけ、ラムートくん(当センターのマスコットキャラクター)が答えるといった、掛け合いスタイルとなっています。

1990年に「苫小牧市の鳥」に制定されたハクチョウ(類)。オオハクチョウの実物大(大きさ&重さ)ぬいぐるみと合わせ、市の鳥に親しみ、学んでいただけたらと思います。



展示ホールの一角にあります



写真とパネルでハクチョウ類を紹介しています

### 散策が楽しい季節となりました

ウトナイ湖岸には、いくつもの自然観察路が整備されています。当センターを出発して戻る「バリアフリー木道」、ネイチャーセンターまでの「ハスカップの小径」、さらにネイチャーセンターから延びる「キタキツネの小径」や「イソシギの小径」などなど、訪れる皆さんそれぞれの体力や時間に合わせて、自由に散策を楽しむことができます。



新緑のバリアフリー木道



「ハスカップの小径」などで5月中旬から見られるズミの白い花

これから6月にかけては、多くの花が咲き、繁殖期を迎えた野鳥のさえずりが聞かれるなど、歩くにはもってこいの季節です。当センターが開催するウォークラリーや夏鳥ウォッチングに参加されるのも良いでしょう。

ただし、吸血するマダニが活動を始める時期でもあるため、注意が必要です。散策後は体にくっついていないか、必ず確認してください。



ウグイス

【自然観察路情報】

2018年4月12日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

ダイサギ、トビ、チュウヒ、アカゲラ、ヒバリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ

《植物》

エゾニワトコ、イヌコリヤナギ(以上、芽ぶき)、キタコブシ、フッキソウ(以上、つぼみ) アキタブキ、ナニワズ、エゾノバッコヤナギ、バッコヤナギ、ハンノキ(以上、花)

《その他》

クジャクチョウ、エゾアカガエル(鳴き声も)、エゾシカ(食痕)



ベニマシコ



ヒバリ



ナニワズ



クジャクチョウ

【水鳥カウント調査結果】

2018年4月12日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、水辺の鳥、ワシ・タカ類 \*( )内は個体数、+は「以上」、±は「前後」の意味

コブハクチョウ(6)、コハクチョウ(218+)、ヨシガモ(40±)、ヒドリガモ(23±)

マガモ(34±)、カルガモ(1)、コガモ(14±)、ホオジロガモ(3+)

カワアイサ(10)、カンムリカイツブリ(5)、カワウ(1)、アオサギ(2)、ダイサギ(3)

コサギ(1)、オオセグロカモメ(1)、オジロワシ(3)、ハクセキレイ(1)



コハクチョウ



5月の自然予報



繁殖地に向けて旅立ったガン・カモ類やハクチョウ類と交代に、林や草原に夏鳥が渡ってきました。4月25日現在、キジバト、ヒバリ、ヤマシギ、アオジ、クロツグミ、オオジシギなどを確認しています。姿を見るのにオススメは、葉っぱが繁る前。美しいさえずりも楽しめるでしょう。



咲き始めたキタコブシやミヤマザクラなど、白い花が目立ちます。例年は5月中~下旬に湖岸を彩るズミは、開花が早まるかも知れません。



足元にはタチツボスミレの淡い紫色、キジムシロの黄色、マイヅルソウの白色など、色とりどりの花が見られるでしょう。



新緑の中、5月中旬からはエゾハルゼミの合唱で賑やかになるでしょう。



東南アジアからの渡って来た、夏鳥のキビタキ(オス)



「ミョーケン、ミョウケン、ガガガ…」と奇妙な音を発するエゾハルゼミ

【カラスアゲハ・ミヤマカラスアゲハ】

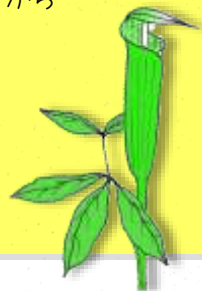
5月頃から出現するアゲハの仲間で、夏は  
 岸辺で水を吸う姿を見かけます。両種とも  
 翅の表は青や緑、赤に黒と非常に美しく、よ  
 く似ています。幼虫はウトナイ湖周辺に多い  
 キハダ(ミカン科)などの葉を食べ、蛹で冬を  
 越します。



ウトナイ湖に関するクイズ。  
 毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。  
 あなたもウトナイ博士になれる?かも。

Q. 林の中で見られる、変わった形をした  
 マムシグサ。マムシとは、毒を持つヘビの仲間  
 です。さて、この植物の名の由来は、次のうち  
 どれ?

- (あ) マムシが鎌首をもたげたような形をしているから
- (い) 茎のまだら模様がマムシに似ているから
- (う) マムシが好きな匂いを出すから



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)  
 において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その  
 活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

クマタカ

2018年 3月 8日

カラス用の罠に入り込み衰弱しているところを発見、保護される。

体重 2600g



強制給餌

- 3月8日 夕方、当センターに搬入。目立った外傷はなかったが、自力で立てないほど衰弱していた。
- 3月9日 翌日の血液検査では、脱水・貧血の所見はなく、皮下捕液を行い、鶏肉を強制給餌した。
- 3月10日 レントゲン検査の結果、骨折等の所見はなし。血中鉛濃度も正常範囲内だった。自発採餌を行うようになる。
- 3月12日 大型リハビリケージにて十分な飛翔力を確認。
- 3月15日 発見場所の近くでリリース。

クマタカ (タカ目タカ科)

ほぼ全道に分布し、通年の観察が可能です。通常は森林内を移動することが多く、なかなか見ることはできませんが、早春は雌雄で空中ディスプレイの行動が見られることがあります。急峻な谷間に生えたカツラなどの広葉樹に営巣し、産卵数は1個のみです。主にエゾライチョウ、エゾリス、ヘビ類などを捕食しますが、道東では、鉛弾による違法な猟で死んだエゾシカを食べ、鉛中毒になる例も報告されています。



皮下捕液の様子

## イベント情報

### 春のウトナイ湖・ウォークラリー

日時：4月28日(土)・29日(日・祝)・30日(月・振休)・

5月3日(木・祝)・4日(金・祝)・5日(土・祝)・6日(日) 10:00~17:00

申込み：不要。当日、10:00~16:00に随時受付

内容：約500mの自然観察路を歩いて一周しながら、途中のポイントに設置された春の自然に関するクイズに挑戦いただきます。ゴールでは答え合わせをし、参加賞をお渡しします。

(解答用紙を持って、それぞれ自由に問題を解いていくイベントです)



### ウトナイ湖・夏鳥ウォッチング

日時：6月3日(日)10:00~12:00

対象：どなたでも(小学生以下保護者同伴)

定員：申込み先着20名(5/2から受付開始)

内容：南の地方で冬を越していた夏鳥たちが渡ってきました。林や湖岸を散策しながら、センダイムシクイやキビタキなどの姿とさえずりを楽しみましょう。



## 市民ギャラリー

### 写真展

#### 「第15回 野鳥展」

日時：4月28日(土)~5月18日(金)

展示：笠水上 徹明さん

### 木工展

#### 「ウッドターニング・ポウルターニング」

日時：4月22日(日)~5月25日(金)

展示：金子 進さん



### ◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

### ◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

#### 【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時~午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

